

## 高大接続アクティブ・ラーニング研究会

### ～AL 評価技法の開発～

The Association of Active Learning in High School/University Connection and  
Its Joint Studies on Active Learning Techniques

共同研究メンバー

○小西英行\*、谷川貴信\*\*、越前泰子\*\*、中井真人\*\*、出岡由宇\*\*\*、藤永万里子\*\*\*、  
鈴木寛之\*\*\*、久恒啓一\*、杉田文章\*、金 美德\*、村山貞幸\*、趙佑鎮\*、中村その子\*、  
大森拓哉\*、浜田正幸\*、下井直毅\*、松本祐一\*、佐藤洋行\*、初見康行\*、野坂美穂\*、  
加藤みずき\*、田中孝枝\*\*\*\*、水嶋和之\*\*\*\*\*、池田剛透\*\*\*\*\*、森島裕一\*\*\*\*\*

(○代表、執筆者)

**Keywords** : High school/university connection reforms, Active learning,  
Problem solving ability, Knowledge utilization power,  
Knowledge creativity

### 1. 高大接続アクティブ・ラーニング研究会をめぐる現状と課題

高大接続改革は、学力の3要素を育成する「高等学校教育」の改革、そして学力の3要素を更に向上発展させ、社会に送り出すための「大学教育」改革、そして学力の3要素を多面的・総合的に評価する「大学入学者選抜」改革をシステムとして実行することである（高大接続システム改革会議「最終報告」(2016) 文部科学省）。特に、高等学校と大学を直接結び付ける大学入学者選抜改革においては、高等学校において育成された学力の3要素を総合的に担保されるための評価方法の開発や活用の必要性が指摘されている。具体的には、生徒の多様な学習成果や活動が反映された「高等学校学修ポートフォリオ」を、各大学が大学入学者選抜でAPに基づいて適切に評価し、こうして入学した学生の追跡調査等によってこれらの選抜方法の妥当性・信頼性の検証をすることが求められるということである。そのために、大学独自の大学入学者選抜において、「小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、

\* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

\*\* 多摩大学目黒中学校・高等学校 Meguro High School, Tama University

\*\*\* 多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校 Hijirigaoka High School and Junior High School, Tama University

\*\*\*\* 多摩大学グローバルスタディーズ学部 School of Global Studies, Tama University

\*\*\*\*\* 多摩大学経営情報学部教務課 School of Management and Information Sciences, Academic Affairs Division, Tama University

\*\*\*\*\* 多摩大学経営情報学部 ALC 事務課・図書館 School of Management and Information Sciences, Active Learning Center, Tama University

\*\*\*\*\* 多摩大学経営情報学部入試課 School of Management and Information Sciences, Admission Division, Tama University

大学入学者志望理由書、学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会での活動や顕彰の記録、その他受験生のこれまでの努力を証明する資料などを活用することが重要となる。さらに、高等学校（や初等中等学校）で作成された、学修ポートフォリオを大学入学者選抜で活用するとともに、大学での初年次教育や学士課程教育での学びをこれに追記していき、大学卒業後の進路に向けたキャリア支援へとつないでいくことが重要となる。こうした背景のもと、多摩大学では、2017年4月より、付属高校である多摩大学目黒中学校・高等学校（以降：目黒高校）と多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校（以降：聖ヶ丘高校）と共に「高大接続アクティブ・ラーニング研究会」による研究活動を開始し、その目的としては① AL 技法の研究・開発、② 高大連携プロジェクトの推進、③ 高校と大学の教育および生徒・学生の実態把握、④ 教員の授業力・教育力・教員力と職員の専門性（アドミニストレーターの役割）の向上が挙げられる。

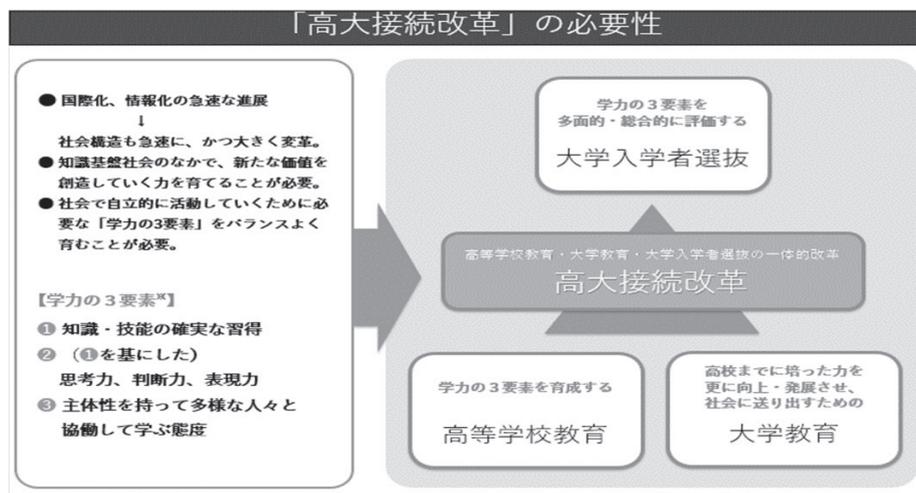


図1：出所：高大接続システム改革会議「最終報告」（2016）

## 2. 高大接続アクティブ・ラーニング研究会の研究方法与対象

高大接続アクティブ・ラーニング研究会では、2017年4月より、研究活動として、① 高大接続に関するヒアリング調査、及び② 高大接続に関するFD研修会、そして実践活動として③ 高大連携のプロジェクトを主に付属の多摩大学目黒中学・高等学校、及び多摩大学聖ヶ丘中学・高校と実施している。

① 高大接続に関するヒアリング調査では、高等学校改革、大学改革の最先端事例を分析することにより、教育改革のみならず、入試改革や経営改革との三位一体の改革の重要性が確認され、多摩大学における改革のヒントとなる知見をたくさん得た。また、② 高大接続に関するFD研修会においては、ルーブリック等を活用した学修成果の可視化の方法についてのその可能性を検討した。さらに、③ 高大連携のプロジェクトにおいては、付属の中学高等学校との学園内ネットワークを活用することにより、スピーディで効果的なプログラム展開をすることが出来た。

### 3. 研究活動の成果

「高大接続アクティブ・ラーニング研究会」の2018年4月～2019年3月までの12カ月間の研究活動成果は、以下の通り。研究活動は9件、中高大連携プロジェクトは6件企画運営された。

#### <研究活動>

##### (1) 「FD・SD」(担当:小西)

###### ① 7月7日(土)10時40分～12時10分(多摩大)

講師:立命館大学 沖 裕貴 教授

内容:・ループリックの概要・3つのPとループリックの関係 ・ループリックの作成ワーク

###### ② 10月13日(土)11時～12時10分(多摩大)

講師:荒尾 吉宣 先生(多摩大学目黒高校)

内容:eポートフォリオシステムについて(ベネッセクラッシー)

###### ③ 3月3日(日)～4日(月)(湘南国際村)

内容:経営情報学部の「上位層教育」の現状と課題

##### (2) 高大接続先進事例ヒアリング調査(担当:金、小西、松井)

###### ① 5月20日(日)～22日(火)

・関西学院大学(高大接続センター):ジャパンeポートフォリオ(高校生の学びのポートフォリオデータベース⇒入試への活用)

・大阪市立大学(OCUラーニングセンター:高大接続AP事業):各種初年次セミナー実施、  
関西大学(社会連携部 高大連携センター):協定高、付属高校連携プログラム

###### ② 9月13日(木)～14日(金)

・金沢工業大学(高大連携プログラム)、金沢星稜大学(高大連携プログラム)、北陸大学(高大連携プログラム・アサーティブ入試)

##### (3) 高大接続アクティブラーニングに関する高校、大学、自治体、企業の動向ヒアリング調査(松井)

###### ①訪問高校16校31人

###### ②訪問大学14大学24人

###### ③自治体・外郭団体8ヶ所50人

###### ④企業5社34人

●高校16校、大学14校、自治体8ヶ所、企業5社、その他5ヶ所、計199人

##### (3) 連携協定

□神奈川県立高校生学習活動コンソーシアムとの連携における、神奈川県教育委員会との連携と協力に関する協定:11月21日(水):「神奈川県教育委員会と多摩大学との連携と協力に関する協定書」の調印式

#### <中高大連携プロジェクト>(参加人数合計107名)

##### (1)「目黒イベントプロジェクト」(担当:村山、中井真人)

□2018.5.7～2019.3.20

□活動回数35回(各イベントを含む)

- 参加人数：41名（多摩大学目黒中学・高校）
  - ・ 多摩大学生の指示・アドバイスによる各イベントの企画・準備、リーダー、企画班による企画書・イベントマニュアル作成
  - ・ 紙漉き（和紙製作）
  - ・ 各イベントに使用する和紙を利用した小物（グッズ）製作
  - ・ 文化祭参加
  - ・ 各イベント終了後の反省会（多摩大学生含む 総括作成）
- (2) アジアダイナミズム研修 (担当: 趙、越前)
- 2018.4.24～2018.12.8
  - 6月25日（月）～29日（金） 済州国際平和フォーラムに参加し、日韓のみならず、東北アジアの平和構築が世界経済の発展を促すことを学ぶ。
  - 参加人数：5名（多摩大学目黒高校）
- (3) 「神奈川県いちょう団地プロジェクト」 (担当: 田中、田端)
- 2018.4.26～2018.12.12
  - 参加人数：16名（多摩大学目黒高校）
  - ・ 神奈川県横浜市泉区の「いちょう団地」における多文化共生への取り組みを学び、高校生立場で感じたこと、考えたことを発表または報告する。
- (4) 「農業・ICTプロジェクト」 (担当: 松本、小西、野坂、鈴木)
- 参加人数：24名（多摩大学聖ヶ丘高校）
- ① パッションフルーツの栽培を通じて農業体験を行う
- ・ 4月18日 パッションフルーツの栽培方法説明（サイバーシルクロード八王子）
  - ・ 4月25日 多摩キャンパスにてパッションフルーツの苗植え付け（野坂ゼミ12名、小西ゼミ18名、聖ヶ丘高校生徒15名・鈴木）
  - ・ 5月16日 パッションフルーツに関するグループワーク（KJ法）（野坂ゼミ12名、小西ゼミ18名、聖ヶ丘高校生徒15名・鈴木）
  - ・ 6月20日 パッションフルーツに関するグループワーク（栽培経過報告）野坂ゼミ12名、小西ゼミ18名、聖ヶ丘高校生徒15名鈴木先生）
  - ・ 10月31日（水）16:30～18:00 201教室「地域活性化マネジメント委員会・高大接続企画 都市農業×企業を学ぼう。」野坂ゼミ、小西ゼミ、聖ヶ丘高校生徒15名、鈴木）
- (5) 「プログラミングプロジェクト」 (出原、加藤)
- 2018.5.10～2018.12.8
  - 参加人数：13名（多摩大学目黒中学・高校）
  - ・ Unityのチュートリアルを通じて、玉転がしなどのゲームアプリケーションの作成を行い、プログラミングの基礎を学び、学んだこと考えたことを発表または報告をする
- (6) 「起業プロジェクト」 (越前、丹下)
- 2018.4.25～2019.12.8（高校2年生女子3名のグループは2019.1.25まで）
  - 参加人数：8名（多摩大学目黒中学・高校）
  - ・ 日本政策金融公庫主催のビジネスプランフランプリに向けて、出張授業や特別講義を受けて、グループごとにビジネスプランの作成し、応募した。多摩大学のAL発表祭ではビジネスプランの紹介を発表した。